

わかると快感!

# Z会ナビ

算数 理科 歴史 地理

お題

## 奈良時代の人々の生活は どのようなものだった?

(筑波大学 2004年 日本史)

「Z会ナビ」が

Webサイト

でも読めます!



Z会おとナビ新聞

検索

これまでの内容も掲載しています!

奈良時代の人々の生活について、次の語句をすべて使って説明しなさい。

防人 浮浪人 貧窮問答歌 運脚

筑波大学入試の日本史は400字で解答する問題が4題出されるという、なかなか重量級の問題です。そして、設問文がかなりシンプルなところが特徴です。今回の問題も、設問文だけでは、奈良時代の人々の生活のどのようなところを答えればよいのか、判断が付きません。そこで重要になるのが与えられている四つの語句。これらの語句の意味を確認しながら、この問題ではどのような解答が求められているのか、探っていきましょう。

### 人々に課せられた重い負担

四つの語句のうち、「運脚」「防人」は、奈良時代の人々が負担した労働のことです。奈良時代の税には、地方に納めるもの(主に稲)と中央に納めるもの(布や地方の特産物など)がありましたが、そのうち中央に納める布や特産物は、自分たちで都まで運ぶ必要がありました。この運搬の労働のことを「運脚」と呼びました。

これらに加えて男性は、一定の期間、政府の兵士となって都や重要都市の警備にあたる必要もありました。このうち、九州北部の警備に当たった兵士たちを「防人」と呼びました。

運脚や防人などの任務は、大切な働き手である男性が一定の間地元を離れてしまうというだ



イラスト・瑞木匠

## 納税と兵士に 苦しんだ人々

けでも家族にとっては大きな痛手でしたが、都や警備の地に向かうまでの食料や、必要な武器も自分で工面しなくてはなりませんでした。そのため、家族のうち1人が兵士になるとその家は滅ぶとまで言われるほど、人々にとっては大きな負担となりました。

語句の一つである「貧窮問答歌」は、山上憶良による歌です。歌の中では「釜には蜘蛛の巣が張って、米を炊くことを忘れてしまったようだ」などと、当時の人々の苦しい生活の様子が

まざまざと描かれています。

### 負担を逃れるために

次第に、人々はこのような重い負担から何とか逃れようと、さまざまな手を試みます。まず多く見られたのは戸籍を偽ることです。当時のさまざまな税や負担は戸籍をもとに計算されていましたが、奈良時代の戸籍を見ると、負担の少ない女性や子ども、高齢者ばかりの戸籍が見られます。これらは戸籍を偽ることで負担を少なくしようという、税逃れの証拠と考えられています。

このほか、戸籍の記載から逃れて各地をさまよう「浮浪人」も多く見られるようになりました。また、僧侶は税の負担がなかったため、勝手に僧侶を名乗る人々も現れました。

このように、与えられた四つの語句を手がかりにすると、奈良時代の人々の苦しい生活の様子を中心に解答すればよいということがわかりますね。設問文は、与えられた条件も含めて、出題者からの大きなヒントでもあります。

【Z会・河原井彩】

### ! 今回の教訓

厳しすぎる政治を行うと、人々は逃げてしまいます。バランスが大切ですね。



河原井彩さん 2007年にZ会入社。大学受験用の日本史、政治・経済の教材編集を経て、現在は小学生向けデジタル通信教育「デジタルZ」を担当。新潟県生まれの埼玉県育ち。